



■発行所／(一社)富山県労働者福祉事業協会 〒930-0857 富山市奥田新町8番1号 TEL076-431-0539 FAX076-431-0510 ■発行責任者／安東 誠・編集者／青木真佐美



「安心・共生の
福祉社会」の
実現に向けて

一般社団法人富山県労働者福祉事業協会

理事長 森本富志雄



新年明けましておめでとうございます。皆様には心
穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は国際協同組合年にあたり、中央労福協の2020年ビジョンの重要指針である「ともに運動する主体として労働組合と協同組合の関係づくり」に基づきその具体化に向けての諸活動を展開しました。

一方、富山労福協では、関係団体のご協力を賜り公

益法人改革関連三法に基づく認可を得て、2012年4月1日に「一般社団法人」としての移行ができましたことに深く感謝申し上げます。

また、労福協の一層の健全経営と労福協センターと関係事業団体との一体化を図り、総合的な経営改善を図る事を目的に策定した「新経営計画（2012～2016年）」の実現に向けて関係団体と協議を重ねてまいりました。

これらの重要な課題に加え、労福協の主業であります「安心・共生の福祉社会」の実現に向け、連合富山、労働福祉団体（労働金庫、全労済、県生協、勤信協、春日温泉観光開発(株)、(株)ゴルフアートとやま、(株)富山北モータープール）のご理解とご協力により、勤労者・生活者等の福祉の向上に取り組んでまいりました。

2013年は、ライフサポート事業における地域勤労者の福祉事業、健康増進事業、生活改善サポート事業、地域福祉促進事業、消費者支援事業などを通して、生活支援を目的として勤労者に根ざした様々な活動を展開してまいります。

また、「新経営計画」に基づき、今年4月に労福協とボルファートとやまの一体化を行うこととし、引き続き労福協関係団体との早期一体化に向け協議・検討を行い、新経営計画の実現に向け一層の努力をしております。

克服すべき課題は山積しておりますが、労福協運動の原点である「相互扶助の精神」を基本に、勤労者の福祉向上、社会的弱者の救済に向け全力で取り組んでまいりますので、引き続きのご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします。

最後になりますが、皆様のご活躍・ご多幸をお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

今年もよろしくお願いたします

[illegible]

連合労働運動と 車の両輪で…

連合富山

会長 森本富志雄



新年あけましておめでとうございます。

ご家族お揃いで、年の始まりをお迎えのこととお慶び申し上げます。

年末の解散総選挙では富山県第一選挙区で戦った連合推薦の村井宗明さんの議席を守ることができない結果になりました。皆様のご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。

全国的にも民主党が大きく後退し、自公両党が総定数の3分の2以上を確保し圧勝したことから、これまでの民主党政権が進めてきた子育て支援や労働者保護などの政策が逆戻りすることや、平和憲法の改悪などの動きが新たに強まることが懸念されます。

いま、私たち働く者を取り巻く環境は、欧州の債務問題の長期化や米国経済の減速、中国との領土問題の関係悪化、新興国の成長スピードの陰りの中で、景気は後退局面に陥り先行きの不透明感が強まり、緩やかに回復してきた雇用情勢についても悪化の動きがみ

れます。

連合は、2013春季生活闘争に取り組みますが、「共闘体制」を一段と強化して「傷んだ雇用・労働条件」の復元、パートや派遣など非正規労働者を含めすべての働くものの賃金・労働条件の底上げ・下支え、労働条件の社会的横断化の促進、ワーク・ライフ・バランスの実現、7万連合富山をめざし活動を強化して行きます。

さらには、連合が求める政策・制度要求の前進をめざし、7月の第23回参議院議員選挙、富山市をはじめ各地方自治体の選挙には、連合の政治方針・推薦基準をふまえ、私たちが推薦する候補者の勝利をめざし総力を挙げ取り組みますので、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

私たちは、「連合」が取り組む労働運動と労働者福祉事業を運動の両輪と位置付け、地域で働き、暮らす皆さんが直面している生活問題や雇用問題の解決、東日本大震災からの復興・再生に全力で取り組んで行きます。

最後になりましたが、今年が皆さんにとって、明るく充実した年になることをご祈念し、年頭のごあいさつと致します。

人が輝く 「元気とやまの創造」を めざして

富山県知事

石井 隆一



明けましておめでとうございます。西暦2013年の初春を県民の皆様とともに寿ぎたいと存じます。

労働福祉事業団体の皆様方には、日頃から労働者の福祉充実や生活向上のため、幅広い事業活動を展開されており、深く敬意を表します。

知事に就任して以来、私の変わらぬ目標は、県民の皆さん一人ひとりが輝いて生きられる「元気な富山県」を創ることです。このためにも、「活力」「未来」「安心」の三つを柱とする基本政策と、これらを支える重要政策「人づくり」の着実な推進に努め、富山県の新たな未来を切り拓いてまいります。

第一に、「活力とやま」の実現、すなわち、若者をはじめ誰もが、「誇りを持って働き暮らせる県づくり」をめざします。第二に、「未来とやま」の実現、すなわち、ご夫婦が安心して子どもを生み育てられる、「未来に希望の持てる県づくり」をめざします。第三に、「安心とやま」の実現、すなわち、高齢化が進行するなか、

「健康で安心して暮らせる地域社会づくり」をめざします。

さらに、こうした元気な県づくりの基盤である「人づくり」、すなわち、いじめ・不登校対策はもとより、子どもの可能性を伸ばす教育、若者・女性・働き盛りの様々なチャレンジへの支援、元気な高齢者が活躍するエイジレス社会の実現などに力を尽くします。

また、我が国は今、東日本大震災からの復興などへの対応とあわせ、近年、世界の中で地盤沈下を続けてきた日本という国をしっかりと立て直し、その再生を図る「新しい国づくり」が求められており、富山県としても、その一翼、一端を担っていかなければならないと考えています。

これまで、県内各地でのタウンミーティング、中小企業との対話等を通じて、ひたむきに努力されている多くの県民の皆さんに出会うことができ、大変心強く、うれしく思いました。今後とも、県民の皆さんの知恵と力を結集して、人が輝く「元気とやま」の創造をめざして、誠心誠意、努力してまいります。

新年にあたり、県政に対するご理解とご協力をお願い申しあげますとともに、労働福祉事業団体の限りないご発展と、皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申しあげまして、新年のごあいさつといたします。

「生活応援運動の 継続・強化」

北陸労働金庫

富山県本部長 石黒 博



新年あけましておめでとうございます。

皆様には、ご家族おそろいで健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃よりろうきんへのご支援・ご協力に感謝申し上げます。

昨年は、東日本大震災復興関連の需要拡大もあり、国内景気が持ち直しの傾向にあると思われましたが、欧州政府債務危機の再燃やアジア地域経済の鈍化の影響により厳しい状況にありました。また、円高・デフレ経済の長期化等により、勤労者を取り巻く環境は、依然として厳しい状況となりました。

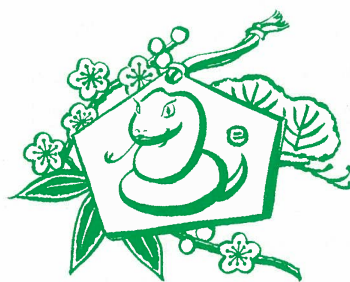
このような金融経済環境下において、ますます〈ろうきん〉の役割発揮が求められていると考えています。勤労者のための生活総合福祉金融機関として、引き続きお客様に安心と良質な金融サービスの提供を行い、「生活応援運動」を今年も積極的に展開してまい

ります。

また、本年は2014年1月の次世代システム稼動に向け、事務移行手続き等の重要な年と考えております。金融機関におけるシステム移行と安定稼動は生命線であり、役職員一体となって移行に向け万全の対応に努める所存であります。

関係諸団体、組合員の皆様には、更なるご理解とご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様の、ご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



「保障と安心を 組合員の皆さまへ」

全労済富山県本部

本部長 藤畑 総司



新年あけましておめでとうございます。

組合員、協力団体の皆さまには、ご家族揃いで清々しい初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃的全労済事業への深いご理解とご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

昨年は、一昨年に引き続きこの間の最重要課題である東日本大震災に対して、共済生活協同組合としての社会的責任をはたすため、被災者対応を最優先課題と位置づけ、全労済グループの総力をあげ取り組んでまいりました。また、富山県内においても、1月下旬からの大雪、4月の低気圧に伴う暴風雨、そして7月の高岡豪雨など多くの災害が発生しましたが、早期の現場調査・共済金の支払いにつとめるなど、迅速な被災者対応に取り組んでまいりました。今後も被災された組合員のためにできる最大限の対応につとめ、助け合いの輪を広げる活動を展開してまいります。

全労済を取り巻く環境は、景気の後退、金融不安、人口減少社会と少子・高齢化、雇用環境の悪化など、依然として厳しい状況が続いています。

2013年は、このような状況下においても、組合員・協力団体との信頼関係にもとづく対面・対話を重視した態勢の再構築による事業推進活動の強化、業務革新の取り組みによる業務品質の向上、組合員の満足度を高める取り組みの強化等、組合員・協力団体の皆さまから信頼・支持される活動を展開してまいります。

「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」を引き続き積極的に展開するとともに、自賠責共済・マイカー共済を中心とした推進活動を展開してまいります。また、将来にわたる組合員への保障と安心の確実な提供を行うため、事業費の削減をはじめとした財務基盤強化基本計画を確実に取り組んでいきます。

全労済の理念である「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」にもとづき、組合員・協力団体や地域社会の皆さまとの絆を大切にしながら、安心と信頼を提供し続けることにより、社会的な責任と役割を果たしてまいります。引き続き、皆さまのご理解とご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、「越中庄川荘」につきましては、勤労者の保養施設として、喜ばれそして安心してご利用いただけるよう、献立の改善・設備改修につとめています。多くの皆さまのご利用をお待ちしております。

最後になりますが、皆さまとご家族のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。

「笑顔」と 「ありがとう」を 大切に

富山県生活協同組合

理事長 松浦 均



明けましておめでとうございます。2013年の新春を、ご家族揃ってご健勝で迎えられたこと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より皆様方から多くのご利用をいただき厚く御礼申し上げます。

東日本大震災の被災地では少しずつ復興の歩みが見え始めましたが、まだまだ支援が足りない状況が続いております。当生協の復興支援活動は、募金活動、被災地への訪問活動、被災された方々を富山に招く活動の3本柱で取り組んでいます。被災地生協の役職員との交流では、「被災地や被災した私たちのことを忘れないでほしい」との意見があり、秋には組合員を対象とした視察ツアーを実施しました。また、福島第一原発事故の問題では子どもたちが自由に外で遊ぶことができない状況が続いており、県内の生協が協力して福島の親子を富山にお招きし、海水浴や釣りなどを楽しんでいただきました。東日本大震災を風化させないた

めにも、今後も復興支援活動に取り組んでまいります。事業活動について、福祉事業では一定の改善がみられましたが、宅配事業は地産地消の利用拡大と品質向上に引き続き取り組んだものの近年にない厳しい状況となりました。

2012年は国連が定めた国際協同組合年でした。「協同組合がよりよい社会を築きます」のスローガンのもと、県内の協同組合や生協と連携してシンポジウムや生協フェスティバルを開催し、講演会やパレードで国際協同組合年を地域社会にアピールをしました。

2013年は第6次中期計画の折り返しの年となります。中期計画の実現に向け、「笑顔」と「ありがとう」を大切にしながら、組合員満足向上と安定した経営を実現していきます。

皆様には今後ともご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



一般財団法人となる 新たな年を迎えて

富山県勤労者信用基金協会

理事長 尾谷 康弘



新年あけましておめでとうございます。皆様方には、2013年の初春を御健勝に迎えられましたこととお慶び申し上げます。昨年中は、当協会に対して格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当協会は、本年4月1日から名称も新たに「一般財団法人富山県勤労者信用基金協会」として、スタート致します。

顧みれば、1972年（昭和47年）7月29日の創立以来今日まで、労働金庫の系統保証機関として、県下に働く勤労者の信用力の増強を図り、もって勤労者の経済的地位の向上と福祉の増進に寄与しつつ、信用保証事業の体質強化等に努めてきました。

本年4月以降は、当協会の信用保証事業や業務運営体制等は、これまでと同様、何ら変わることはありませんが、主務官庁による業務・運営全体を一律に監督することがなくなるため、当協会の自主的、自律的な運営が必要となります。また、評議員会、理事会等の機関設置やガバナンスに関する事項については、法人

法等の法律で規定されることになります。

新たな年となる2013年は、復興需要や海外経済の状況の改善等により、景気は回復へ向かうことが期待されます。しかし、勤労者の生活環境は、雇用情勢、年金・医療・介護等の社会保障制度に対する社会不安、所得環境の先行き等、昨年に引き続き厳しい状況が続くものと想定されます。

一般財団法人となる新たな年を迎えて当協会は、自主的、自律的な事業運営を念頭に置きつつ、北陸労働金庫の系統保証機関としての信用保証事業の更なる発展と勤労者の福祉の増進等を図るため、役職員一同、一生懸命頑張る所存であります。

皆様方には、この一年のご多幸をご祈念申し上げつつ、引き続き倍旧のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



お客様本位のサービスに徹し、 「売上・利益確保」に より一層の努力を

株式会社ボルファートとやま

代表取締役社長 若林 好信



新年あけましておめでとうございます。2013年の輝かしい年をご家族お揃いで、健やかに迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

平素より皆様方には、「ボルファートとやま」をご利用いただき格別のお引き立ての賜ものと、全社員一同心から厚く御礼申し上げます。

昨年6月、代表取締役に就任し半年が経過いたしました。まだ、皆様方のご期待に十分に答えられていない状況ではありますが、一步一步確実に社員とともに結束し結果を積み重ねてまいりました。

私たちは、大震災からの復興・再生と原発事故への対応など厳しい道程の中で、政治が混迷を深め日本経済の低調が続いています。先行きの不透明・不安定感、企業活力を奪い、雇用・生活の改善と外交問題を含め、多くの分野に影響を与えております。

このような中で、当社を取り巻く環境も依然厳しい状況が続いており、2012年度（第22期）は何としても慢性的な赤字体質からの早期脱却に向けた、「収益力

強化」にこれまで以上に大胆に踏み込み、(1) お客様本位の経営へと今一度回帰し、顧客満足度向上に励む。(2) 社内の周知を徹底し、常に収支を意識した全員経営に努める。(3) 事業計画のうち、目標とする「売上・利益」の達成に全力をあげる。(4) 社員全員が部署にこだわらず、あらゆる業務に対応できる能力を身につける。このことを重点事業方針として全社員一丸となり取り組んできました。

一方で、「営業強化」・「コスト削減」に向けた「組織体制の見直しと変更」を実施し、大きな売上の拡大はできなかったものの、一定の「収支改善」に繋げることができました。

4月1日より、労福協が取り組む「新経営5カ年計画」の一環として、労福協と(株)ボルファートとやまとの「一体運営」をスタートすることになります。一体化後は、事業運営体制は変更となり、ボルファートとやまとしての事業内容も確実な「収益体制の確立」に向け「伸ばす事業、縮小する事業、見直す事業」を見極め、今一度原点に立ち返りお客様の声に耳を傾け、喫緊課題であります「お客様本位のサービス」に徹し、「利用して良かったと言っただけ」ボルファートとやまを目指してまいります。

皆様方には、本年も格段のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

すべては 「お客様の満足」のために

春日温泉観光開発株式会社

代表取締役社長 永田 博樹



新年明けましておめでとうございます。

ご家族お揃いで、輝かし新春をお迎えになられましたこととお喜び申し上げます。

昨年中は、各構成組織、加盟組織の皆様方から多くのご利用をいただきました。また、そのご家族の皆様方にも「ゆ〜とりあ越中」をご利用いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、取り巻く経営環境が大変厳しいなか、すべては「お客様の満足」のために「すべてはお客様に始まりお客様に終わる」を第一義として、宿泊客・日帰り客の利用促進を図り、目標とする売上高・利益を確保し、安定した経営基盤の確立を図ることを命題として、事業の発展に取り組んできました。

加えまして、ご承知のように、4月25日に露天風呂、大浴場、エントランスロビー、売店、お食事処「清瀬」など全面改修を行い、施設リニューアルオープンを執り行い、宿泊、日帰り利用客の更なる増加と売上高の拡大に取り組んできました。

つきましては、施設リニューアルオープンを一つの節目として、人と人とが交流する憩いの空間、なごみの温泉施設として、人と人との大切な絆の場を、スタッフ一同、真心をもってご提供をし、これを契機に、「す

べてはお客様満足のため」一層の努力をしていく所存でございます。

新しい年を迎え、当社を取り巻く環境が好転する要素は全く見当たらず、長期低成長とデフレ経済、財政難と社会保障の負担増などの構造的な危機と厳しい雇用状況など、経済状況は閉塞的な状況が長期化することが予測され、加えて、国際市場での資源や原材料の高騰と併せ、原材料の入荷不足、商品の高騰等、昨年以上に厳しい経営を強いられることは、避けられない状況にあります。

また、現在、お客様が温泉旅館に求める価値感が変化し、個人・家族単位での旅行が主流になりつつあります。

加えて、個人・家族客への対応に加え、今後増加が予想される高齢層のお客様にも快適に過ごしてもらえ、高品質な温泉旅館が求められています。

つきましては、今まで以上に真心のこもったおもてなしと、美味しい料理と、リニューアルを致しました露天風呂・大浴場湯で、身も心もリフレッシュしていただくために、一層の努力をしお客様ニーズに応え、安定経営基盤の確立に繋げていく決意であります。

直面する経営環境は、依然として大変厳しいものがありますが、2013年度は、全社員一丸となって、事業展開を図っていく所存であります。

皆様のご多幸をご祈念申し上げ、本年も変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

親切な対応に心がけ 顧客へのサービスの向上

(株)富山北モータープール

代表取締役社長 森本富志雄



新年明けましておめでとうございます。ご家族お揃いで健やかに新年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

皆様方には、日頃より株式会社富山北モータープールをご利用いただき、感謝とお礼を申し上げます。

北陸新幹線は、東京から長野、富山を経由し大阪に至る約700kmの路線です。長野から金沢間は平成26年度末の完成予定です。また、北陸新幹線事業にあわせ、鉄道によって分断されていた南北一体化を目的に、在来線を高架化する連続立体交差事業は、環状線の整備を中心に連携強化が図られ、観光利用の来街者を含めて流動増加が期待されます。駅周辺は独自の屋外駐車場が多く設置され、一日の上限駐車料金を設定する低価格の駐車場も出てきました。今後は価格競争が売上に影響していくと考えられます。

去年は、富山市総合体育館ではチンドンコンクール、インターハイや高文祭、また、環水公園で行われたり

レーマラソンやクリスマス花火大会等のイベントに大勢の人が集まりました。特にリレーマラソンでは、過去最高の7千人の参加があり、当社の駐車場も午前中から満車という大盛況でした。体育館や環水公園でのイベントは売上に大きく影響していくので年間行事をしっかりと把握し対応していきます。

本年も営業努力を一段と強めることはもちろんのこと、「安全で、便利で、安心して利用できる駐車場」として顧客の期待に応えるべく経営改善を考えていきますので、一層のご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

今年も皆様とご家族にとって素晴らしい年でありましようご祈念申し上げ、年頭のあいさつとします。



勤労者に潤いのある 生活支援を

公益財団法人富山県労働福祉基金

理事長 森本富志雄



新年あけましておめでとうございます。皆様には清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、富山県労働福祉基金に対しまして深いご理解とご協力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

当福祉基金は、1988年12月に富山県並びに県下市町と労働団体、福祉事業団体から出捐金の拠出を得て、中小企業、未組織労働者を含めた富山県下の勤労者福祉の向上・発展を図るために設立されました。

以来、県内勤労者の生活の安定及び福祉の向上に寄与する諸活動を行っております。

2011年4月1日には、公益法人改革関連三法に基づく公益認定を受け、公益財団法人に移行し、新しい時代にふさわしく、勤労者の皆様に潤いを提供できる「公益財団法人」として事業を推進しています。

具体的な事業として、保養施設利用補助、美術館等文化施設利用補助、体育施設の補助等を行い、勤労者の健康で文化の享受の支援を行っています。

去年は、体育施設の補助として行っているプール利用は猛暑が続き多くの利用があったことや、指定保養所利用補助、スキー場ゴンドラ・リフト補助、出産子育て資金融資の保証料助成や美術館等の利用補助を行ってきました。

今年はさらに利用内容の充実を図り多くの勤労者にご利用をいただくために、保養施設の充実や、新たに富山県西部にスキー場の指定を行うことなど検討していきます。

福祉基金は、この厳しい社会環境において勤労者に潤いのある生活を支援し、勤労者の福祉向上に役に立てる諸事業を行ってまいりますので、引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年一年皆様にとって幸多き年になりますようにご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

